

はままつくらしの情報



「老人ホームなどの入居権を譲って」
という電話は詐欺です

2022. 10
編集・発行
浜松市くらしのセンター
〒432-8032
浜松市中区海老塚町5-1-1

【電話相談】
市民相談 457-2025
交通事故相談 457-2233
消費生活相談 457-2205

市内各地には高齢者のために様々な施設があり、親族や知人が入所している方もいると思います。一方でこうした施設の入所をめぐる詐欺的な行為によりトラブルとなる事例があります。



今月号では、入居権の譲渡をめぐるトラブル事例と注意点を紹介します。

◆ 事例 「あなたには入居権がある、譲ってほしい」と電話があった

介護施設運営会社を名乗る人から「市内に介護施設ができ、市内在住者のあなたには入居権がある」と電話があった。「必要ない」と断ると「他市に住む女性に権利を譲ってほしい」と言われたので承諾した。後日、弁護士を名乗る人から電話があり「あなたは入居するつもりがないのに申し込んだので犯罪だ。違反金 600 万円を支払わないと逮捕され、拘留所に入ることになる」と言われた。お金を用意したがだまされているのではないかと心配した。（80歳代 女性）



◆ ひとことアドバイス

- 実在する企業名などを名乗り「高齢者施設の入居権を譲ってほしい」などと持ち掛ける不審な電話がかかってきたら、相手にせずすぐに電話を切りましょう。
- 話を聞いてしまうとさまざまな口実で金銭を要求されます。一度支払ってしまうと取り戻すことは困難です。不安に感じても話をうのみにせず、絶対にお金を支払わないでください。
- 困った時、不安に思った時、トラブルにあった時は浜松市くらしのセンター等に相談しましょう。

（浜松市くらしのセンター：457-2205、消費者ホットライン188）

【参考・引用】見守り新鮮情報 第428号（2022年8月9日）発行：独立行政法人国民生活センター



生前整理 デジタル遺品リストを作りましょう

デジタル遺品（パソコンなどのデジタル機器に保存されたデータやアカウントなど）について、「IDやパスワードが分からず、遺品整理や相続が進まない」という事例が見られます。ネット関連の情報についてノートなどに記し、家族などに伝える手段を講じておきましょう。



【参考・引用】見守り新鮮情報 第430号（2022年9月6日）発行：独立行政法人国民生活センター

エシカルコラム Vol.70 食材の活用



スーパーマーケットやデパートの食品売り場等には多くの食材、食品が売られています。食べることは生活の基本ですが、冷蔵庫に入れたまま消費期限を過ぎて食べられなくなったり、飲食店で廃棄処分される食材もあり、いわゆる食品ロスが大きな課題となっています。今月号ではドイツにおける食材の活用事例を紹介します。

食材を捨てる前に一考を

ドイツの夏の風物詩といえば、マルクト（市場）に並ぶ白アスパラである。出回るシーズンが短いため、毎年心待ちにしている人が多い。伝統的な食べ方は、ゆでた白アスパラに卵とバターで作った黄色いソースをかけるというもの。ゆでる前に硬い根元を切り落とし、穂先以外はピーラーでむいておく。根本と皮からもよい出汁が取れるので、捨てずに一緒に（または先に）ゆでるのがドイツ流である。エキスをたっぷり含むゆで汁は、おいしいスープに生まれ変わる。



このように食材を丸ごと生かす手法は古くからあったが、商品テスト財団^{※1}によると、余った食材の有効利用が最近再び注目されているという。ドイツ語で「貧しい騎士」と表現される再利用メニュー（日本語でフレンチトースト）もその一つ。牛乳、卵、砂糖などを溶いた液に古くなったパンを浸し、バターを引いたフライパンで焼くと、甘い軽食になる。

もっとも同財団は、余った食材なら何でも使えるわけではないと強調する。細菌に汚染された野菜、変色したパン等は廃棄するよう助言する。また、野菜の葉がすべて食用に向くわけではないと注意を促す。例えば、赤く酸味のあるルバーブは葉柄（葉と茎をつなぐ柄）を食用とするが、葉にはシュウ酸が多いので、食べてはいけないという。

なお、ノルトライン＝ヴェストファーレン消費者センター^{※2}のホームページには、余った食材の使い方やレシピが数多く記載されている。消費者からもレシピ案を募集し、集まったアイデアの中に、その季節に合った作品があると「今週のレシピ」というコーナーで紹介するしくみである。

※1：ドイツにおける商品やサービスの試験を行う団体

※2：ドイツのノルトライン＝ヴェストファーレン州からの資金等により運営されている消費者センター

【参考・引用】 国民生活 2022.6 No.118 海外ニュース 岸 洋子

※上記はドイツでのお話ですが、私たちの身近なところでも食材を大切に使用している例があると思います。自分で工夫して、**食品ロスを減らすこともエシカル消費です。**まずは日々の生活の中で取り組みましょう。

主要生活物資価格調査結果は、総務省統計局が実施している「小売物価統計調査」
をご覧ください(<https://www.stat.go.jp/data/kouri/doukou/index.html>)



消費者庁イラスト集より